〈書　評〉

# 在宅介護支援ビデオ「在宅介護教室」

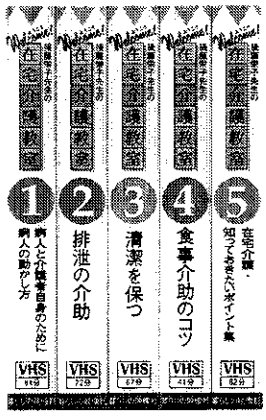
わが国の平均寿命は，平成７年の第18回生命表では，男性は76.38年，女性は82.85年となっている．昨年１月に公表された新人口推計では，西暦2050年（平成62年）には，男性は79.43年，女性は86.47年達するという．まさに，21世紀は高齢者の世紀であるが，今日国民が老後生活について抱いている最大の不安は，介護の問題である．寝たきりや痴呆といった介護を要する高齢者が増加するとともに，介護期間も長期化しており，家族の心身の負担が非常に重くなっている．

人は，歳をとって老人となり，いずれ病院や自宅で病人としてその人生の最後を送るのが普通である．平成７年度人口動態社会経済面調査では９割の高齢者が自宅を死亡場所として希望するものの，その３分の１の人しか自宅では死亡していない．結果的に，７割以上の人が病院や診療所で死亡している．その背景には家族の介護負担の重さも大きな要因と考えられる．

病院などで点滴や人工呼吸器につながれたまま人生を終えるのは，本人や家族にとっても決して望ましいとは考えていない．しかし，介護を必要としながら自宅で過ごす場合，病院や福祉施設のような介護機器は備わっていない状況に置かれ，どうやって寝たきり老人などを介護するか困惑し悩んでいる家族は非常に多い．そのような状況に少しでも対処できるよう，誰にでも自宅でできる介護法を紹介するビデオが発刊されたと毎日新聞（平成10年１月９日）が紹介している．

ビデオは，日本在宅看護普及会代表の後藤栄子氏が行う介護教室での授業風景を中心に編集，専門施設での機器を使用しないで済むよう，家庭でできるよう，介護教室へ通わなくても介護法が習得できるような工夫が随所に見られ，制作者鈴木浩氏の介護体験が本ビデオ作成の動機となっていることを，カメラアイから感じとれる．

中身は，日常必要なほとんどの介護が網羅されている．全５巻で，第１巻（84分）の「病人と介護者自身のために病人の動かし方」では，介護知識の必要性，マッサージの方法，寝たままの体操，楽な姿勢の保持，歩行介助，車イス介助等が，第２巻（72分）の「排泄の介助」では，排泄の介助，寝室での排泄，便器・尿器の使い方，おむつのあて方等が，第３巻（67分）の「清潔を保つ」では，シーツや寝巻きの交換，入浴・足浴の方法，静拭や洗髪の方法が，第４巻（41分）の「食事介護のコツ」では，食事介護，水分補給，口腔の衛生等が，第５巻（82分）の「在宅介護・知っておきたいポイント集」では，普段から注意，緊急時の対応，褥創や痴呆への対処が収められている．




自治体の介護施設でこれを備えて，地域住民に在宅介護技術を提供することを進めたい．また，介護専門職でも器具のない在宅介護となると，意外に指導できない場合が多いとの指摘もあるので，プロフェショナルにも一見を進める．

因みに，母は今年数えで卒寿を迎えた．幸いそれなりに元気で，介護を必要としない．全５巻の力作なので，全てをみるにはかなり時間を要したが，万が一を考えて，予備知識として吸収した．セット価格で２万円以下だが，一般ルートでは入手は難しい由．「暮らしの映像社」（電話03-3937-8823）に直接連絡するとよい．

大久保　千代次（生理衛生学部）